

研究概要図のブラッシュアップを通じた研究資金獲得支援の試み ^{P26}

大西将徳^{1*}（onishi@kura.kyoto-u.ac.jp）、川口利奈²、森山理美¹、浅見智子³
（1 京都大学学術研究展開センター、2 京都大学大学院工学研究科、3 富士通株式会社グローバル政策推進本部政策推進戦略部）

要旨

- 研究推進において、研究を視覚的に魅力的に、伝わりやすく整理することは重要。しかしURAのサポートには限界。
- 京都大学学術研究展開センターでは、研究概要図の作成支援にフォーカスした研究支援活動を 2020年度から3年間試行。
- 研究者のニーズ調査、研究概要図のブラッシュアップにフォーカスしたセミナー実施、個別の研究概要図ブラッシュアップによる個々の研究者支援とURAのスキルアップも試行。
- 外部講師との共創の機会を得た知見を URA のスキルアップにどう繋げていくかが今後の課題。

背景

・URAは研究費獲得等の "書面" ブラッシュアップ支援は得意。しかし "図"・視覚的なブラッシュアップは必ずしもそうではない。研修の機会がなく個人のスキルや経験による能力のばらつきが大。

・一方で研究者からの図や視覚面でのサポート依頼も一定数ある。

・また短時間で研究の魅力を伝える機会が増える中、視覚的に整理する技術は重要。効果的な研究概要図を作成することは、研究者が自身の研究構想を整理するためにも役立つ。



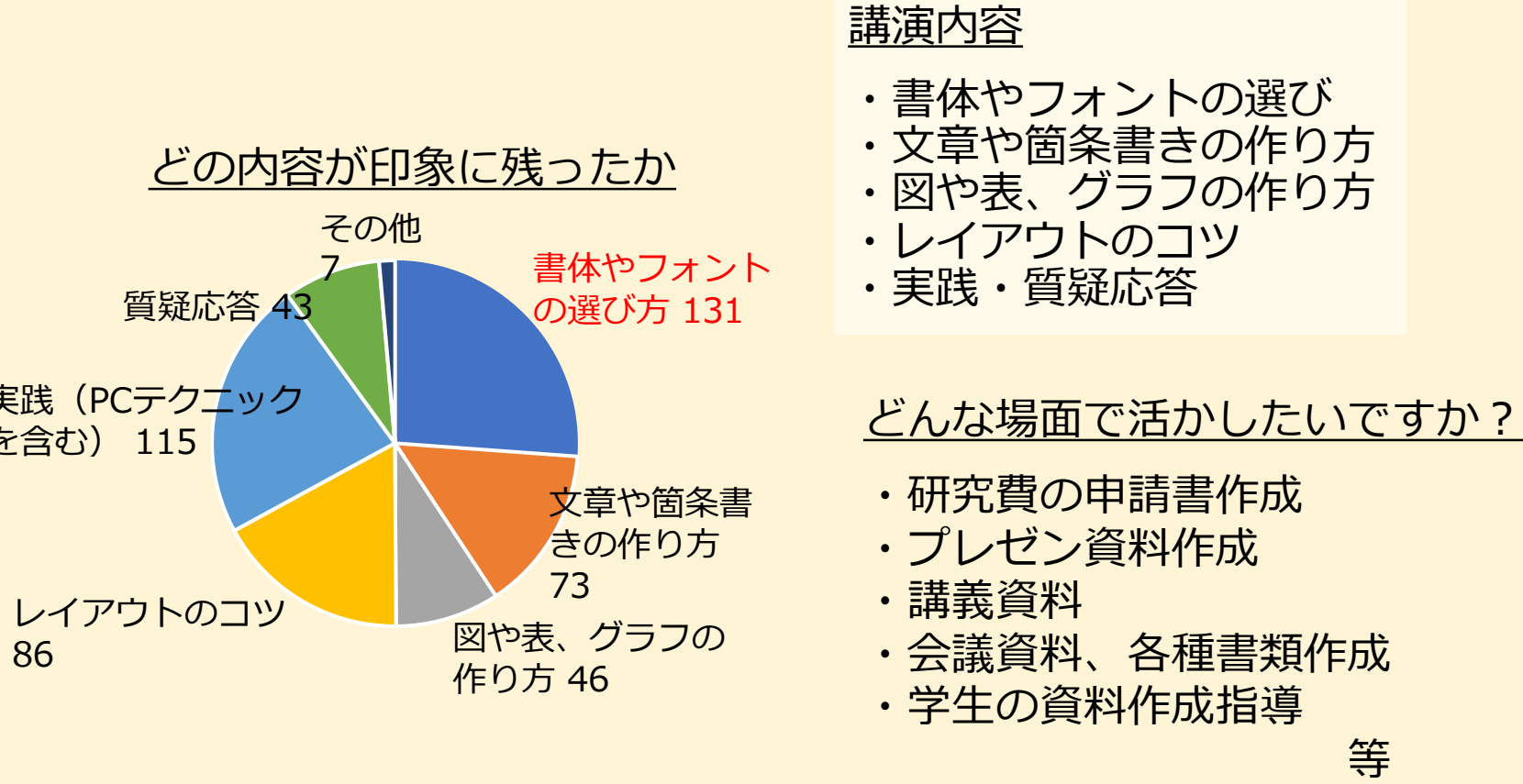
URAとしてどのようなサポートができるのか？有効か？

京都大学学術研究支援室（現・学術研究展開センター）では、2020年度より3年間、研究概要図の作成支援にフォーカスした研究資金獲得支援の活動を実施

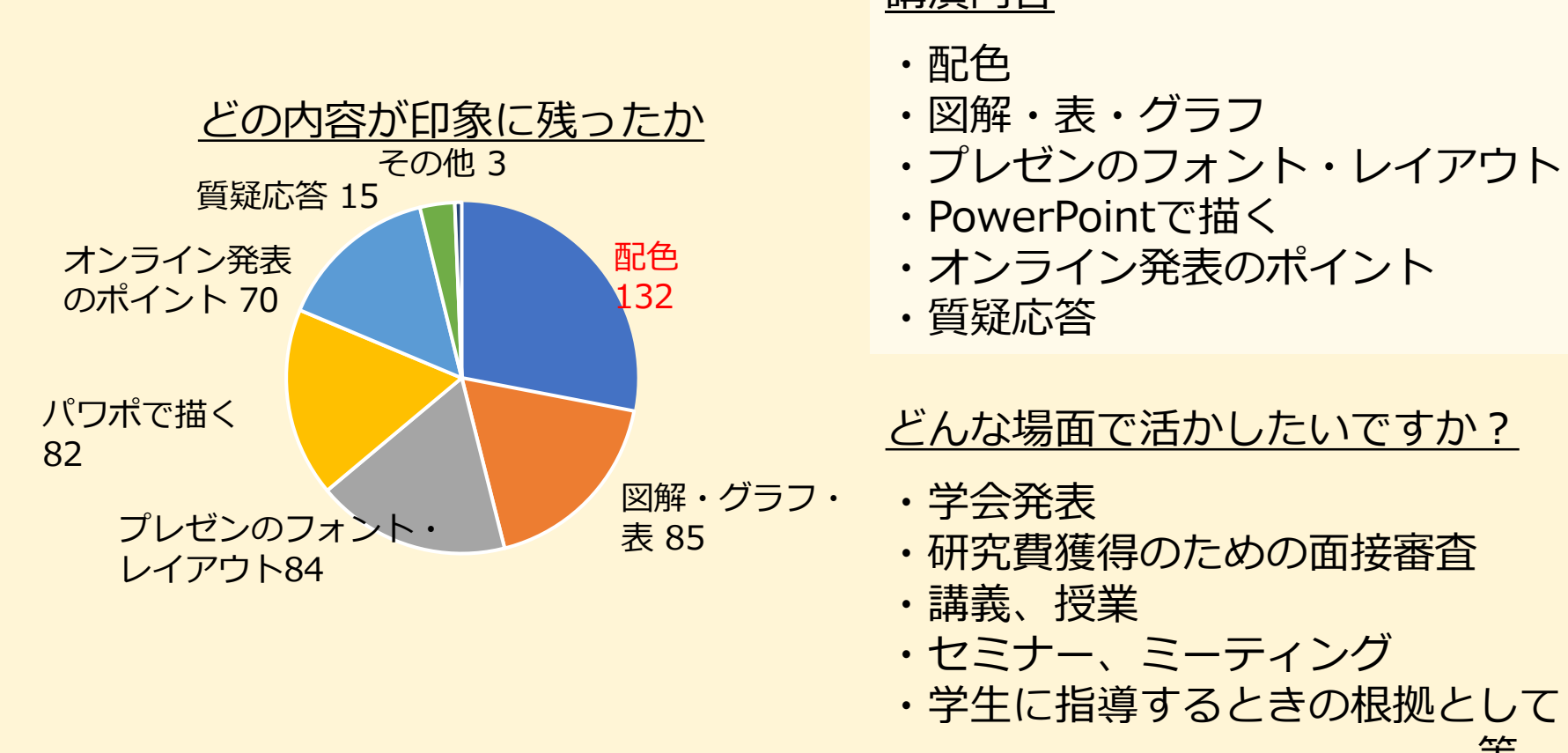
Step1 ニーズ調査：デザインスキルアップセミナー（2020年度）

・ニーズ調査の位置づけで、「申請書」、「プレゼン」、「デザイン制作」をテーマにしたデザインセミナーを実施。（対象：京都大学教職員、博士後期課程学生）

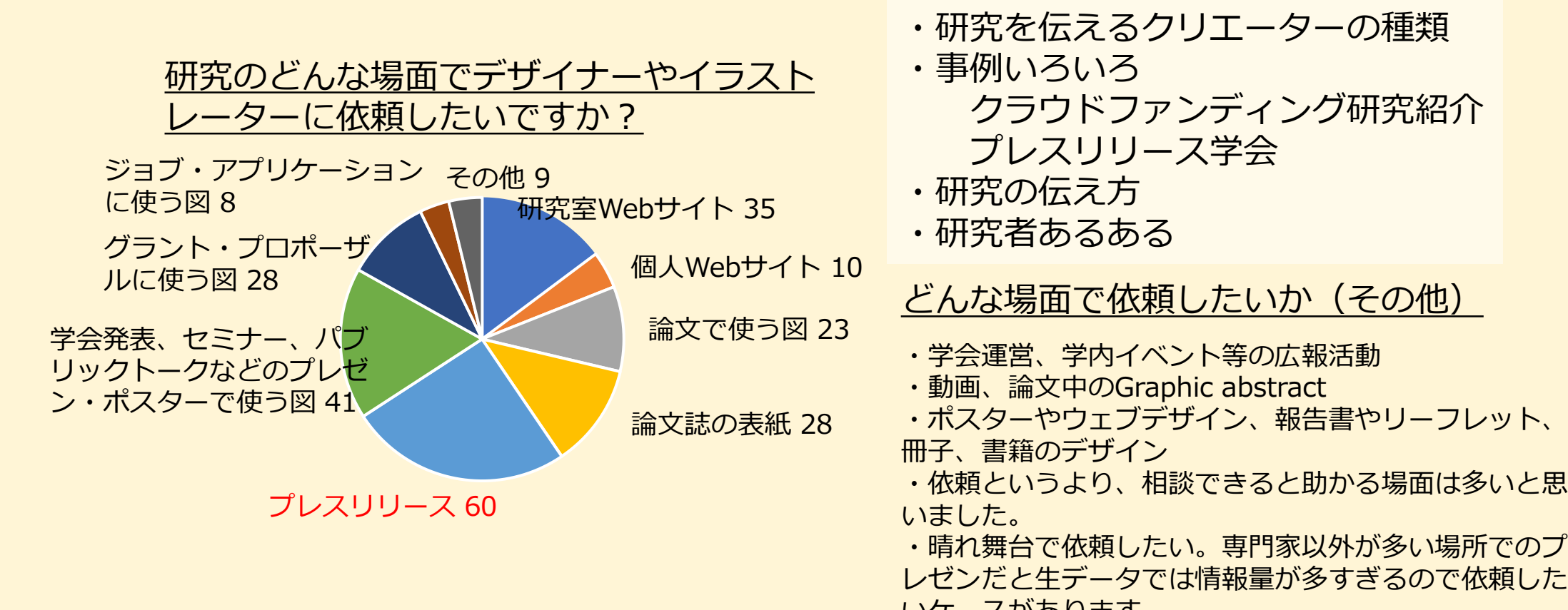
第1回「伝わる申請書作成スキル」
講師：高橋佑磨（千葉大学特任助教（当時））
参加者：295名



第2回「効果的なプレゼンの極意」
講師：田中佐代子（筑波大学芸術系・教授）
参加者：358名



第3回「研究を伝えるデザイン制作の舞台裏」
講師：アダチヒロミ（アダチ・デザイン研究室室長）
参加者：274名



Step2 研究概要図に特化したセミナー（2021年度）

・ニーズ調査（2020年度セミナー結果）を受け、研究概要図に特化したセミナーを実施。参加者：167名。

・Before – After を示しながら具体的な例を示すために、事前に個別のブラッシュアップ案件を募集。

・セミナーでは、タイプの異なる3件の実例を紹介。

・講師：有賀雅奈（桜美林大学 リベラルアーツ学群 助教）

研究者の特徴	応募種目	図の概要
情報・大学院生	JST ACT-X	数式、モデルを含む研究概要図
環境政策・准教授	JSPS 科研費基盤A	文字ベースの研究概要図
建築・講師	JST 創発的研究支援事業	概念図ベースの研究概要図

＜参加者からの要望まとめ＞

- ＜テクニク系＞
- 具体例を使ったBefore-afterなどWS
 - インパクトのあるポンチ絵の描き方、パワポで描くところに特化
 - 研究者が自分でWebサイトを作る際のポイント、作成のコツ
 - パワーポイント、Excel、Illustrator、Photoshopの使い方、活用法
- ＜話す系、オンライン系＞
- プレゼンで伝わる話し方、学会で魅力的なポスター発表
 - オンライン国際学会発表
- ＜管理系、広報系、キャリア等＞
- 論文管理方法、PCやiPad等を使った効率的な論文の読み方
 - 研究を広報するには（引用数アップ＝研究業績アップ）？
 - SNS／オープンアクセス／活用し、話題になる方法
 - 研究者のキャリアアップに関するセミナー
 - 文章構成やスライドの内容構成（作るときストーリー）を学ぶWS

Step3 研究概要図の個別ブラッシュアップ & URA のスキルアップ（2022年度）

・個別ブラッシュアップにURAも同席することで、URAのスキルアップも兼ねた機会を創出。

・8名の研究者のブラッシュアップを実施。

・2－3月に実施することで、春からの研究費獲得にもつなげる。

・講師：有賀雅奈（桜美林大学 リベラルアーツ学群 助教）

ブラッシュアップの流れ

- 研究概要図案の説明、改善提案（研究者、講師、URA）
- 研究者によるブラッシュアップ
- 講師によるブラッシュアップ、改善コメント

外部講師との共創の機会を得た知見を URA のスキルアップにどう繋げていくかが今後の課題。

知識の整理と実践、また専門家との協業をどのように進めるか。

＜研究者の感想＞

- 素晴らしいブラッシュアップと詳細なフィードバックを頂き、誠にありがとうございます。
- 矢印の設定方法など、細かな技も丁寧に教えて頂き、本当に今後生きるエッセンスを教えて頂き、感謝申し上げます。
- 今回の企画は私にとってとてもタイムリーなものとなりました。
- 今後にも使えそうなアドバイスもたくさんいただき感謝しております。
- 発散していたものがまとまりつつあります。これをベースに文章を練り直し、再度挑戦していく予定です。
- コンセプトが形になりました。強調も適材適所で効いていて、まさに伝わる研究構想図ですね。
- これまで図はあくまで文章の補足と考えていましたが、その考えが変わりました。今回の経験を活かして、今後は図で勝負できるよう精進しようと思います。



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学 学術研究展開センター
Kyoto University Research Administration Center